国立国語研究所
オープンハウス2020

言語地図データベースの紹介

大西拓一郎

「言語地図データベース」とは

- 言語地図
  方言地図とも呼ばれます。方言の分布を表す地図のことです。
- 言語地図データベース
  日本で作成されてきた言語地図の書誌・項目・地図画像のデータベースです。
- 国立国語研究所のwebサイトで公開しています。
  https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/ladp/ladb_index.html

言語地図データベース　検索

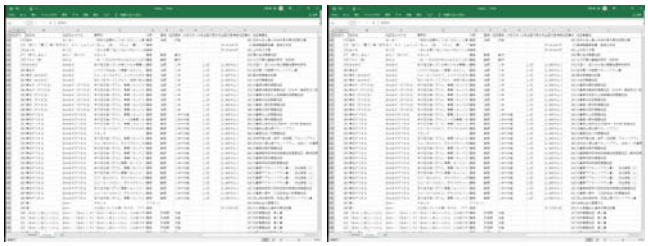
目的

- 1970年代から20世紀末を中心に日本では大量の言語地図が作成されてきました。
- これらの言語地図の多くが国立国語研究所研究図書室に所蔵されています。
- 大学研究室を中心とした私家版が多い。
  →Webで公開し、広く利用できるようにする必要があります。
- 初期のものは紙の劣化が進んでいる。
  →画像データ化して、保存・保護を行う必要があります。

背景と構成

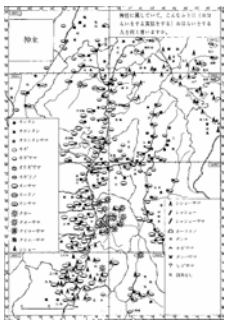
- 21世紀初頭までに、言語地図集（アトラス）が440冊以上公表され、収録される言語地図（マップ）は28,000枚にのぼります。
- 世界の方言学のなかでもトップレベルの規模を誇ります。
  Onishi. 2010. Mapping the Japanese language. *Language and Space: An International Handbook of Linguistic Variation: Language Mapping*. Mouton De Gruyter
  Onishi. 2018. Dialects of Japanese. *The Handbook of Dialectology*. John Wiley & Sons, NJ, USA
- 期間も長く、量も多いことから、整理・保存・公開が必要です。
- 「言語地図データベース」として、2016年から国立国語研究所のサイトから公開を継続しています。
- 構成
  書誌データベース：書名・著者・発行年など
  項目データベース：地図名・分野・分類キーワードなど
  地図画像データベース：スキャン画像ファイル、ジオタグ付き画像ファイル

書誌データベース
項目データベース



一冊ずつの地図集の一覧にあたる書誌データベース、一枚ずつの地図の一覧にあたる項目データベース、ともにダウンロードしたファイルを開き、コピーアンドペーストでエクセルに読み込ませると、一覧表の形で扱うことができます。

地図画像データベース
スキャン画像ファイル



馬瀬良雄1980『上伊那の方言』より「神主」

- 地図画像データベースの地図画像ファイルは、２種類あります。原則として、すべての地図を2種類の画像ファイルにして公開しています。
- そのうちのひとつ、スキャン画像ファイルは、もとの地図画像を忠実に再現したものです。
- スキャン画像ファイルは、素の画像ファイルですので、地図としての投影法、測地系や方位はさまざまです。

地図画像ファイル
ジオタグ付き画像ファイル

- もうひとつの地図画像ファイルは、ジオタグ付き画像ファイルです。
- こちらは、地図画像に経度・緯度の情報を与えています。
- 地理情報システム（GIS）を使うと、正しい位置に表示できます。
- ここでは、言語地図を透過させ、湖沼や河川とともに標高をもとにした陰影段彩図で表しました。
- ジオタグ付き画像ファイルは、研究分析にはとても役に立ちます。ただし、単純に画像として見ると少しゆがんで見えることがあります。また、GISを使ってもとの地図の経緯度線や地形を手かがりに位置データを付与する必要があるため、作成には手間がかかります。

馬瀬良雄(1980)『上伊那の方言』「神主」と地理情報の重ね合わせ